

(別紙様式3)

令和5年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 70  
学校名 愛知県立愛西工科高等学校  
校長氏名 丹後 茂

研究責任者職・氏名	教諭・夫馬 刈穂	
研究テーマ	主体的・対話的で深い学びに向けた持続可能な授業改善の研究	
本年度の研究目標	(1) 主体的・対話的で深い学びを取り入れた効果的な授業実践の研究 (2) ICT 機器を活用した、授業展開の研究 (3) 教科及び学科を超えた指導者間の教授方法の共有と教材のデータベース化	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒)
令和5年4月13日 令和5年5月15日 令和5年5月25日 令和5年6・7月 令和5年7月26日 令和5年7月28日 令和5年10月31日 令和5年11月10日 令和5年11月14日 令和5年11・12月 令和6年2月 令和6年3月	あいちラーニング推進事業委員会にて研究計画書審議 あいちラーニング推進事業委員会にて要項及びアンケート等検討 職員会議にて要項、研究計画書報告 前期アンケート実施 第1回主管校主催連絡協議会参加 愛知県教育委員会へ研究計画書報告 公開授業及び研究協議会開催 第2回主管校主催連絡協議会参加 公開授業及び研究協議会開催 後期アンケート実施 研究報告書を職員会議で報告 研究報告書を主管校へ送付	
研究成果の評価及び・普及還元に関する実績		
<b>1 授業アンケート</b> 令和4年度に主体的・対話的で深い学びや、ICT活用に関する11項目からなるアンケートを作成した。令和5年度は前期及び後期でFormsを利用し、授業実施クラスでアンケートを行った。アンケート集約シートを作成し、前期は課題と後期に向けての改善点を後期は前期の改善点が改善できたかどうかと来年度の目標を記入し、振り返りとした。また、主体的・対話的で深い学びについては国立教育研究所参考資料を周知し、取り組むよう促した。		

## 2 公開授業及び研究協議

### (1) 10月31日公開授業及び研究協議

#### ア 公開授業

下表のとおり公開授業を行った。パワーポイントやノート共有による入力や小テスト又はタブレットでの検索やスクリーンへの表示、録画など、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを推進する授業を行った。5校8名の参加者があった。

時限	教科・学科	公開授業内容
1	数学科	2次関数のグラフと2次不等式を用いた日常の事象の数理的考察
2	理科	様々な眼の調整機能の考察
	建築デザイン科	木材の接合部の仕組みや機能の理解とその組立て方法 突合せ溶接部の引張試験
3	地歴公民科	政治参加の重要性
	保健体育科	がんの種類予防方法

#### イ 研究協議

##### (ア) 内容

公開授業担当者が授業展開上の留意点及び感想を述べ、参加者による意見交換や情報共有を行った。

##### (イ) 感想又は意見（一部）

- a 知識の伝達になることが多く ICT を活用し調べ学習や意見発表の場を設けるなど生徒が主体的に参加できる機会を設定するの必要を感じた。
- b 生徒が理解すべき内容を自分のこととして考える授業を実践するため生徒の状況に応じた声かけや身近な現象と結びつけること、生徒の疑問点に焦点をあてるのが重要である。
- c 主体的・対話的で深い学びは、主体的パートと対話的パートに分けて取り組むようにしている。対話的な学びは、すべての生徒が参加できる状況をつくるのが大切である。
- d ICT 機器は目的ではなくツールとして、主体的な学習活動につなげることが大切である。

##### (ウ) その他

公開授業の映像を、校務系パソコンにアップロードし視聴可能にした。

### (2) 11月4日公開授業及び研究協議

#### ア 公開授業

下表のとおり公開授業を行った。ロイロノート使用やペア学習、共有活動、タブレットでの語句意味調べ、Google Classroom 共有ノートでの活動、プロジェクターを使用したスクリーンへの表示など、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを推進する授業を行った。5校8名の参加者があった。

時限	教科・学科	公開授業内容
1	国語科	五十歩百歩の語源と応用
2	英語科	食品廃棄物と比較表現の理解
	ロボット工学科	ヒストグラムの作成
3	機械科	軸と軸継手の種類

#### イ 研究協議

##### (ア) 内容

公開授業担当者が授業展開上の留意点及び感想を述べ、参加者による意見交換や情報共有を行った。

##### (イ) 感想又は意見（一部）

- a 生徒の理解力を考慮し、理解力に応じたプリント作成で生徒の集中力を持続させている。また、学習内容を明確に理解させることが大切である。

- b 該当教科を苦手にならずに3年間続けさせること、将来の学びにつなげることを意識している。授業では解答を示さず、分業制や直訳形式を意識している。また、様々な知識は try & error を繰り返すことで定着すると考えている。
  - c 興味を持たせる、教え合う（アクティブラーニング）ことを大切にしている。主体性が一番大切である。生徒間で教え合うことで学びが広がっていく。グループ全員が理解できるまで活動させる。今後は保守的な形態から斬新的な学習活動を心がけたい。
  - d ICT は、目的達成のため筆記用具のように必要時に活用する。授業では、探究的な深い学びとなることが大切である。
  - e 各校のタブレット活用は、発表活動の録画、音読録音の評価、英作文を書かせるの提出、パフォーマンステストにおける Teams の利用などである。生徒の希望により用紙を配布している場合も多い。
  - f 専門科目と英語のつながりが深まればもっと深い学びにつながるのではないか。
- (ウ) その他  
公開授業の映像を、校務系パソコンにアップロードし視聴可能にした。

### 3 ICT 活用方法の集約と、教材などのデータ集約

教材のデータベース化及び ICT 機器活用方法の集約を行った。校務系パソコンにデータベース化したが、教育系パソコンでの作成が多かったためか、データベース化が十分とはいえなかった。

※ 本研究報告書は、令和6年3月11日までに当該地区の主管校に提出する。